

## 第4回 江府町義務教育学校設置準備委員会【議事録】

■期 日：令和2年 8月28日（金）

■時 間：19：30～21：00

■場 所：防災・情報センター 2階 研修室

<会議出席者>

【委員】手島委員長、谷田副委員長、井上委員、中田委員、河上委員、宮本委員、川上委員、稲田委員、山川委員、北村委員、梅林委員、瀬尾委員、竹内委員

【事務局】富田教育長、加藤課長、景山学事担当課長、岡田主事

### 1 開会

委員長挨拶

あっという間に夏休みが終わったという感じがしている。私が小さい頃は十七夜が終わればトンボがどんどん飛びだして、風も涼しくなるし学校がまた始まるなどと思って、宿題もまだあるし、わびしい思いをしていたのを思い出した。夏休みが終わっても本当に暑い状況の中、皆さん方も昼間のお勤めでお疲れのところご参集いただきありがとうございます。本によればある動物学者が（次のようなことを言っていた）。地球温暖化で昆虫が非常に少なくなった。昆虫が少なくなるということは、鳥も少なくなったということ。鳥にさわっていたウイルスやコロナが人間に襲ってきたという、そういう言い方をする動物学者がおられて、そうかもしれないなという感じがする。本当にこの暑さは異常で、いろんなところで災いを醸しだしている。これもやはり人が作り出した温暖化なので、人間が最後には責任を持たなくてはいけないということだろうと思う。今日5時には安倍首相がご辞退を悲痛な思いでなされて、今頃は自民党本部はてんやわんやだと思う。各党派会派が集まってこれから決まっていくわけだが、来年だいたい1年間中継というリリーフが決まるところという中で世の中も騒がしい状況になっている。

先だっては、皆さん方にとってもいい校名を決めていただきありがとうございました。「奥大山江府学園」ということに決まったわけで、あとで家に帰って反芻して言ってみると、だんだんこれはいいなという気持ちになった。「(江府) みらい学園」もよかったが、そういつていたらむしろ返しになったらいけないが、本当に皆さん方によって江府町の奥大山江府学園の屋台骨を組み上げてもらっているのだなという思いがつくづくする。そういう意味で今日も校章を決めたり、あるいは校訓を決めたりということで、いろいろまた皆さん方のご意見を聞きながらまとめていければなと考えている。余分なことをしゃべったが、どうかよろしくお願いします。ありがとうございました。

### 2 報告

事務局 資料の7ページをご覧いただきたい。前回の準備委員会で選定いただいた校名・校舎名を応募された方に、名前を紹介させていただいてもよいかという確認を

していなかったが、改めて確認させていただいたので、ご紹介させていただく。「奥大山江府学園」については2名の方が書いておられた。井上さんと長岡さん。それから、ブナの森校舎については6名、大人の方が2人と、中学生が1人、小学生が3人。ちなみに、「ブナの森」という言葉そのままということではなくて、「ブナ」と「森」が入っているものについては、選定名を応募してくださったという判断をさせてもらっている。中学校の方の校舎名「日野川校舎」については、10名の方が応募されていた。大人の方が6名、小学生が4名。こういった方々の応募があって、先ほど委員長さんからも話があった「奥大山江府学園」、校舎名「ブナの森校舎」「日野川校舎」が決まった。校名・校舎名は9月の町報で記事にしている。防災無線でも流したが、合わせて町報の方でも紹介をさせていただいている。以前話があったご応募いただいた方への表彰という形も9月の議会に向けて予算を上げているところ。予算が通れば、ここに挙げている方々に対しては記念の品を贈るということで進めている。応募者についての報告は以上。

副委員長 この報告について何かご質問はあるか。よろしいか。

では、続いての報告、保護者・学校及び学校・教育委員会の取組状況について、校長先生にお願いします。

瀬尾委員 代表して私の方で。毎月両校の管理職で話し合い、少し仕事の仕分けをしようということになった。PTAの方々もできることはすると言ってくさっていることもあり、たたき台がないとなかなか難しいかなと思い、仕分けをしてみようということで話をしている。町Pの会の時に提案する予定。スケジュール表の中の下の方にあるブルーの「行事・その他」と書いてある項目、そこを小学校や中学校のPTAで考えてくださいということになっている。この中で、行事、入学式・入学舎式については、2つとも学校の方で案を作って、保護者の方にどうでしょうかというふうにみていただくということで、中心は学校で保護者の方の意見をいただくというやり方で考えている。「その他」の中の「PTA組織」についてはPTAの方が中心で学校が事務局で入って学校も協力をするということで、中心はPTA。「参観日」「部活」についても、学校が中心で決めて、どうでしょうかという（やり方）。「制服」については、各学級から2名ずつとか決めて、保育園、小学校、中学校から集まって組織を作ってそのリーダーを決めてその方が中心となって（相談する）。学校もちろん入るが、中心はPTA。大きく言うと「PTA組織」と「制服」は保護者の方にさせていただいて、学校が協力をするという進め方でどうだろうかと思っていて、そのことを町Pの時に提案しようと思っている。ご意見いただきながら、決まったらこのように決まったので協力してくださいという連絡ができるかなと。ここにいらっしゃる設置準備委員会を中心として発信していただければと思うので。

江教振(江府町教育振興会)は、今年は小学校が担当。夏休みに小中の先生方、教育委員会の方々に来ていただいて、ビジョンのこと、学校の行事のこと、教育課程のことという3つの部会に分かれて協議した。ビジョンは、わいわいと意見が出たし、行事の方は特に運動会を中心にして、運動会をどうしていけばいいのか、例えば一本化するにしてもミックスしてやると焦点が絞られないのではないかと、一部二部とかして小学校が中心で一部、午後に中学校が中心で二部ということもあるのではないかと様々意見が出た。今回は運動会を中心に(協議)しているが、このままいけば文化祭とか学習発表会のこと話合っていく予定。

教育課程では、特に6年生が日野川校舎に行ったときに6年生の教科担任制をどのように進めたらいいのか、6年生を中心として話し合っている。どんなことができるのか、より効果的な方法は何か、T.Tなのか、教科担任制なのか、それをミックスして考えようというところまで今話をしている。この後、11月くらいにはほしいこの方向でいこうという流れを決めていこうと考えている。

副委員長 今、進捗状況を報告していただいたが、まだこれからこのように検討を進めていくということが決まった状態なので、中身については11月以降また決まってきたことをお知らせいただくということになると思うが、何か確認とか質問があればお願いします。よろしいか。それぞれ学校や保護者が中心になるのはここだというのがはっきりして検討を進めてもらっているようなので、よろしく願いしたい。

報告は以上にさせていただきます。

### 3 協議

#### (1) 校章募集について

事務局 資料の1ページをご覧ください。校章は公募という形で募集をかけたいと思っている。前回お配りしたのから、事務局内で検討して少し内容を変えているので、今回のものを案としてご覧いただけたらと思う。

応募の目的は、校名・校舎名と同じようなねらいで公募をしたいと思っている。前回の校名・校舎名では、(応募者は)町外の方もあったし、国外の方もおられた。江府町に対しての関心を持ってくださっている方がたくさんいるのだということ事務局としても改めて思ったところ。今回もこういう形で公募をしたいと思っている。

応募資格は、前回の校名・校舎名ではつけていなかったが、子供の国保育園の園児をつけさせていただいた。前回は要項等を決めていく段階の中で保育園も少しかかわれたらよいのではないかという話があったため、江府町在住の方という文言の中に含んだが、これから奥大山江府学園に入ってくる子ども達とい

う意味もあったので、子供の国保育園をそこに挙げさせていただいている。

応募方法と応募先も、校名・校舎名と同様。(防災情報センターに設置した)ポストに入れる方が多かったが、メールで送られた方もあった。町外の方で郵送の方もあった。

募集期間については、前回2か月間としていたが、少し長いのかなと思い1か月にした。

選考・表彰については、最優秀賞が最終的に奥大山江府学園の校章になる。候補となる作品がいくつかあがってくると思うが、その場合には、候補となるものについては優秀賞というようなものを選定する。前回の校名・校舎名と同様、現在予算がないので要項には挙げていないが、予算化して記念になる品物を用意できたらと思っている。

校名・校舎名の場合は、補作はしないということだったが、デザインの場合には、小さい子が書いた「こんな感じ」みたいなものが採用された場合には、ある程度形になったほうがいいのだろうと思うので、その場合、デザインへの思いは活かしつつ、校章としてふさわしいデザインというのは必要だろうと思うので、補作ということを挙げさせてもらっている。

今回校名・校舎名が決まった後すぐ選定作品に応募された方を紹介できればよかったが、その文言を書いていなかった(すぐに公表できなかった)。今回の場合には入選された場合には、住所・氏名等は公表させていただきますということで、要項に入れている。

副委員長 今校章についての説明をしていただいたがご質問などあるか。これはコンピューターを使ってのグラフィックだとか画材とかそういったことは補足みたいなものは必要ないか。

事務局 江山学園の募集要項を参考に作らせていただいているが、特にそういったものはなかった。コンピューターが得意な人であればそれを使ったデザインでも構わないのではないかと思う。いわゆる画材を指定するのなくてもよいのかなと思う。最終的には補作ということ載せているので、クレヨンでざっくり描いてあるようなものがあるかもしれないが、そのままということは難しいということがあるかもしれない。その場合にはその図柄を活かしながら、校章として校旗だとかステージの上とかそういったものに使われていくので、補作の中で考えさせてもらうのかなと思っている。

副委員長 補作をされる人は決まっているか。この方がするとか担当とか。

事務局 それについては、作品が決まってからと思っている。江府小学校(平成21年度開校)の校章は公募をかけていた。担当された方の記憶では、公募のデザインが非常に良かったので、それを特に修正かけることなく、今の校章になったと。デザインの中身によってはそのまま使えるというものもあるのかなと思う。補作

がいるとなった場合には、そこで検討させていただきたい。

副委員長  わかった。その他、いかがか。

委員  「(3) 留意点 ②デザインに色を付けてもかまわない。」というのがあるが、私の記憶が定かではないが、色が付いているものが正式なのか、色が付いていないものが正式なのか。バッジにすると色が付かない。色が付いているのがスタンダードなのか、色が付いていないのがスタンダードなのか。

事務局  事務局でもそのことが話題になっていたが、江府中学校のものは色が無い。このマーク。江府小学校はこの色というのがある、紫とか。時代の流れからすると色付きというパターンもあったりするのかなと。

委員  色が付いていれば付いているし、付いていなければ付いてないし。

事務局  校旗とかにつけるのは刺繍になるので、色はある程度決めていく必要があると思う。

委員  江府小の校章は、中学生2人が共作で作って(応募した)。あやめのマークで、ペン先の模様に意味がある。中心は紫、先が黄色い色だった。それにも意味がある。なぜそういうふうにしたかというのが全部書きあげてあって、その思いがついていた。それがそのまま、学校の学校要覧等にも使用しそれが続いている。色にも意味がある。以前勤めた学校では、下地がえんじで色なしだった。それもあり。マークだけ。そのマークにどういう意味があるかというのが書かれている。色付けがなく、マークだけでもいいという、どちらでもいいと思う。

事務局  出来上がった時期にもよると思う。江府小学校は平成21年にできているし、江府中は何十年か前かと。その当時は色とかいうのを考えるというのがあまりなかったのかなと。想像だが。

委員  この文章の書き方で言うと、「付けてもかまわない」ということは、付けないのが普通なのかなという感じにもとれるし、その辺がどうなのか。基本的に色が付いているものが校章で、なかなか(色が)付けられないのは白黒かなにかでということなのか、その辺が逆に曖昧になりすぎている。

事務局  小学校と違って、一つの学校になると7・8・9年生の制服の関係もある。今の中学生は、セーラー服の後ろに校章がある。色が付けられるかどうか。男子はバッジがあるか。

委員  今はない。

事務局  今はないが、(バッジを)つけているところもある。そのバッジに色が付けられるかどうかということもある。あやめというものが素材としてあった場合、色がつけないとわかりにくいということがあれば色のこだわりがあるかもしれないし、場合によっては選考委員さんの中で、これはいいけど色を付けると違うということで切っていくということもあるかもしれない。そういうこともできるのかなと個人的には思う。

- 委員 付けても付けなくても、(学校のイメージに) つながるようなものを自分たちが選ぶとか募集するかということではないか。今のデザイン (のように) しようかと思えば色が付いているものだと思うだろうし、色を付けてもかまわないではなくて、白黒でもかまいませんよという書きの方が今風なのかもしれない。校章を刺繍する、帽子を作るとか、昔の僕らは詰襟があって詰襟に必ず校章がついていたが、それをカラーにするとか単色にするとかいうのは、その先の話でいいのではないか。色がついていても思いがあったら色も付けないといけなだろうし。募集するときではなく、選ぶときに考えなければいけないことなのではないか。
- 委員長 中学校は統合した時からこれだと思う。昭和35年くらいだと思う。当時は男子は帽子を全員かぶっていた。帽子のところに付いたり、今言われたように襟につけたり、女性はどうかだったか。
- 委員 セーラー服の横に。
- 委員長 ビラビラの物を作って、ここ(胸のあたり)につけていたこともある。
- 委員 これでいいのではないか。どのように書いたらいいのか。
- 委員 どちらでもいいですよ。この書き方だと、色付けたらダメなの?というところははないか。
- 事務局 どっちでもいいですよというふうに読んでもらって、あとは補作の中で。
- 副委員長 この文言はこのままということではよろしいか(うなずき)。  
その他、いかがか。
- 委員 校名・校舎名についてもだが、保育園、小学校、中学校の子どもたちは、それぞれ一生懸命自分たちの通う学校は何がいいかなということを実際に一生懸命考えていると思う。この間の選ぶときにもすごく感激したし、その気持ちに応えたいと思う。鉛筆1本でも、バッジ1個でもなんでもいいと思うが、参加賞的なものとしてお渡しができたと思うのがいかがか。全体に配るのは難しいかもしれないので、学校の取組に対してだけでも参加賞が出せたらと思うが。
- 副委員長 関連したようなご意見はあるか。
- 事務局 委員からは前にもお話を伺って検討した。もし今回の校名・校舎名で鉛筆を出すとすると、今度の校章についても出すということになる。それはそれで悪いことではないのかもしれないが、まとめて学校がスタートするという段階に、校名とか校章とかが入った記念になる、物差しなのかペーパーウエイトなのかわからないが、そういったものを記念に渡すというような形で、みんなが考えてくれたというのを表すという形が一番いいのかなと思っているところ。ここ(準備委員会)での話し合いには、校歌が挙がってくる。校歌(の選定)に子どもたちが参加するかどうかは今後の皆さんの協議であるが、これもこれもというよりは、まとめて奥大山江府学園がスタートするときに記念として(配布)という形で子ど

もたちに配るのがいいのかなというのを事務局では考えている。

委員 それはその時の在校生だけか。

事務局 そのあたりもまた検討したい。

副委員長 そのあたりも含めて検討していただいて、記念になるものを渡していければという方向性としてはあるということによろしいか。

委員 ありがとうございます。

副委員長 時期的なものも2ヶ月から1ヶ月ということだがそのあたりもよろしいか（うなずき）。この件についてはこれで進めていただくということ。

事務局 周知等については、事務局の方にお任せいただいて、校舎名等と同様に防災無線等も使いながらみなさんに積極的にご応募いただくということで進めたい。

## （2）校訓について

事務局 開催案内にも資料をつけさせていただいた。学校の大きな目標である校訓ということについて、皆さんにご協議いただきたいということで資料をお付けしたところ。開催案内の際には、事務局で案を出すとお伝えしたので案を説明させていただく。

現在、子供の国保育園には「保育理念」があって、小学校には「たくましい心と体 自立 敬愛 鍛錬」、江府中学校は「しなやかな心と体 自主・自立 誠実・友愛 明朗・剛健」という校訓がある。こういったものも参考にしながら、また、「保小中一貫教育目標」を昨年度の検討委員会の中でも協議していただいて、保小中に一貫した、もう少し言えば、保・学園一貫目標ということになるのかもしれないが、そういった目標を決めていただいたので、そういったものとのつながりも考えた。

「しなやかな心と体 自立 創造 敬愛 剛健」ということを案として考えた。「しなやか」という言葉に込められる思いは何なのかということを書かせていただいた。「しなやかな心と体」は江府中学校の校訓。歴代校長先生が、「雪の重みに耐え」という紹介をされているので、卒業生の方は、パッと校訓が出るという方がおられるのかなと思う。「自分自身を失うことなく（自立）、状況に応じて柔軟に対応できる（創造）」ということについて。これからの時代は変化が激しいので、その変化に対応できないと生き抜くことは難しいだろうということ。それは「しなやかさ」につながる部分があるのではないかと。また、対応はするけれども、あっちいきこっちいき自分がないのではいけないので、しっかりとした芯を持ちながら対応できる、それはしなやかということにつながるのかなと思う。「敬愛」に関しては、「友愛」という言葉もあったが、全てのものに対して尊敬と愛情をもつという、それは周りの友だちだったり、地域の人だったり、江府町の自然であったり、そういったところにも愛情を持つ、それを自分

の好き嫌いということだけではなくて、ここにはこういう良さがある、友だちにはこういう良さがあるということが見つけられるということも「しなやか」というところにつながるのかなと。そして、江府中歴代校長先生がおっしゃっていた「雪の重みに耐える若竹の力」ということで「剛健」。そういった4つの意味合いが、「しなやかな」という言葉にかかってくるのかなと思っているところ。「江府町民憲章」との関連でいうと、4つの言葉がこういったことにかかってくるのかなと思っている。先ほどお話しした「保小中一貫教育目標」の言葉につながるとしたら、こういうところと重なっていくのかなと思っているところ。

副委員長 今、案をいただいて、これについて皆さんからご意見をいただき、きょう決定というよりは、もし皆さんのご意見でこういったことをもう少し変えていったほうがいいのではないかとということがあれば、また検討してければというふうにする。「しなやかな心と体 自立 創造 敬愛 剛健」という校訓についてご意見いただけたらと思うが、いかがか。

委員 非常にいい言葉だと思うが、確認したいのが 「しなやかな心と体」というのはいいが、4つの次の単語は、順番はこれがよいのか。

事務局 そそもぜひ検討いただければと思っている。

委員 意味づけ上このような順番になっているのか。

事務局 4つの言葉については、実は3つの方がいいのかなと正直思ったこともある。「知・徳・体」とよく言うが、そういう点からすると、学びは自分から学んでいくという点で「自立」、「敬愛」というのは「徳」、「体」というのはたくましさみたいところが「剛健」と思っていたが、これからの時代、「創造」はいるだろうと思って言葉を入れた。「創造」が最後にくるのか最初にくるのかといろいろ思ったが、まずは自分がしっかりしていないといけないのかなというのもあった。絶対この順番でなくてはいけないということではなくて、この言葉はあったほうがいだろうと思ったというところ。ねらいを持ってこの順番にしたということではない。

副委員長 今の話だと、順番を変えることも検討できるか。

事務局 ご意見があれば。この言葉よりこの言葉というのものもあるかもしれない。

副委員長 この内容、この言葉自体も別の言葉はないかとか。私も同意見で、こういうのはやっぱり3つだろうなど。「心・技・体」もあったが、だいたいこういったものは、江府小学校も江府中学校も三本立てになっている。人は3つが好きらしく、特に日本人は。覚えやすく親しみやすいという意味で言っても、3つに絞るということも必要な視点かなと思った。そういったことも含めて、順番、4つの言葉でいいのかということや、他の言葉で置き換えられるのではないかとか、思われたことを出していただければと思うが、いかがか。

委員 自分は、「創造」という言葉を残してほしいと思う。「自立」して「敬愛」して「剛



健」で、それができて初めて何かを創り出すことができる。ひとりで創るのではなくて、誰かに手伝ってもらおうかと思うと、敬愛の心がないといけないし、絶対必ず成し遂げるぞという強い心がないと創造できないし。順番を変えたほうがいいのかないかなという感じ。「自立」「敬愛」「剛健」があって「創造」があるのかなと。

副委員長 今挙がっているのは、この4つの言葉の並びがこれがいいのではないかというご意見だったと思うが、またご意見があればそれを出していただきたい。

委員長 「しなやかな心と体」ということについて。小学校も中学校も含んでいるので、小学校は（現在）「たくましい」となっているが、「たくましい」ということになると、体が弱くて障がいをもった方も中にはおられたりして、「たくましい」というのは自分としてはどうかなという気がする。「しなやかな」となれば、いろんな個性をもった方が（入る）。体も頑丈な人もいるし、体は頑丈ではなくても一生懸命頑張る子どももいて。そういう意味では「しなやかな」の方がいいと思う。「しなやかな」の内容に、特に小学校の子どもさんには説明しないといけませんが、「剛健」という言葉も含まれているということをお話せば、さっき言っておられた「自立」「創造」「敬愛」。「しなやかな」が分かりにくいから「剛健」を入れておいた方がいいのかなと思ったりもする。

「自主」について。新しい指導要領を進めていくので自主的な取り組みがないといけないし、求められているし、何ができるかということも求められているので、今委員が言われたように創造する力、あるいは友だちと話し合っただけで「創造」していく力。ひとりだけの創造ではなくて。アントレプレナーシップ（のように）、グループで話し合っただけで積み上げて、江府町の将来には何が必要なのかということをお話して、積み上げていく。もちろんぜひ残してほしいし、「敬愛」はちょっととれない。ひとを敬愛する前に自分を好きにならないといけない。3つに絞るとすれば、「自主」「創造」「敬愛」「しなやかな心と体」にするかなと思ったり「剛健」を入れるかなと思ったり、迷っているところ。

副委員長 「自立」の代わりに「自主」という言葉がいいのではないかというのもあるのか。「自主」「創造」「敬愛」

委員長 「自主」がくれば「自立」がくる。

副委員長 案としては、「自主」「創造」「敬愛」もあるというご意見をいただいた。いかがか。

委員長 「自立」と言えば、「自主」がないとできない。一般的には自主自立というので、「自主」がいいのか。

副委員長 いかがか。

委員 言葉が出てこなくて、どういった言葉がいいのかはわからないが、自分自身は子どもたちに、友だちや家族みんなを大切にすると同時に、自分自身がどうしたい

かという自分自身を大切にすることを大切にしたいなど。その部分が「自主」や「自立」の部分のあたりかと思うが、こういった言葉だったらそれが伝わるのかなと悩んでいて。子どもたち自身も自分を大切に、みんなを大切にすると同時に自分を大切にしたいと思う。

委員長 今の話は、「自主」に包含されるような気がする。

委員 「敬愛」でもいい。自分も愛してひと愛してという。逆に自分も許して相手も許しましょうと。求めて愛するだけじゃなくて許すことも。

副委員長 今、こういう思いを込めてほしいという委員の思いとか、自分もひと大事にするというような、こういう思いを込めてほしいとか。思いを何の言葉に託すかということていくと、(自分を大切にするという思いも) おそらくカバーできるだろうと思う。その言葉に託す思いというのが、提案では「江府町民憲章」と「保小中教育一貫目標」からもってきてもらっているが、先ほど委員さんの言われたことと言えば、「人を敬いやさしい心を育てましょう」だけれども、自分も大事にというような視点も入ってほしいということもあったので、込めたい思いみたいなものを出していただいてもいいのかなと。そこで、ぴったりくる言葉はないかなと考えてもいいと思う。いかがか。

校訓に込める思いとしてはここに挙げているものでよろしいか。他にこういう視点が入った方がいいのではないかということはないか。(意見なし)

では、それに限らず、ここで挙げる3つもしくは4つという話があったが、取り上げる言葉は、このような言葉がいいというような意見はないか。

委員 自分は、「剛健」を省くならば「たくましくしなやかな心と体」であと3つがくるのがいいかなと。「たくましい」とは、体ばかりではなく、たくましい心をもって、なにくそという気持ちも大事にしてほしいので、どうかと思うが。小学校の校訓が入っているものはどうか。

委員 自分は、校訓は50年、100年、ずっと続くようなものだと思う。永遠の課題というか、究極のこのような形というようなものだと思う。小学校の場合は基礎作りという意味で、たくましい心と体がないと、さらに上にいけないからそのための「たくましさ」というのはとてもいいと思った。さらに中学校まで続くわけなので、土台の上でさらにしなやかになっていくということだと思うので、先ほどの「しなやかな心と体」というのが、最終形としてはいいかなと思った。先ほど「知・徳・体」というのが出てきて、3つというのが出たが、「知・徳・体」だったら、「自主」とか「自立」とか「敬愛」「剛健」この3つかなと思う。先ほどの意見もあるので「創造」は捨てがたい。「創造」というのは、ある意味もっと上にいくという、上のレベルというか、上にいくという感じがする。この3つの力を使いながら創造していくというような、違うレベルかなと思うので、「知・徳・体」を入れた上での「創造」。「創造」は少し上をいくのかなと思う。

- 副委員長 今日絞る必要ないと聞いているが。
- 事務局 絞れば絞っていただきたい。
- 委員 「創造」は捨てがたい。でも、バランスをとるのであれば「創造」がない方がバランスがとれそうな気はする。こんな言い方は悪いが、仕事をしていても自分で何かを創り出す人があまりにも少なすぎて、創造することができなくて指示待ちで待っている。子どもに対しても自分で自立して周りがちゃんと見えて、心がたくましくて何かを創り出すことができるということを期待したい。
- 事務局 「知・徳・体」「心・技・体」ということもあって、3つというのがおさまりがいい。ただ、それで言うと最初に思ったのが「自立」「敬愛」「剛健」、いわゆる「知・徳・体」という、そういう意味でまさに委員さんがおっしゃったように、そのうえで「創造」という意味合いというのがあると思う。保小中一貫教育目標の中の最初のところの「ふるさとに夢を描き、まち・ひと・みらいとつながる江府っ子」という「ふるさとに夢を描き」という言葉はまさにその「創造」につながると思うので、アンバランスな4つ目というのが強調されるのかなと。普通3つというところを4つ目に。3つがベースとしてあって、4つ目に「創造」という言葉が浮かんでくるという、それは今ここで話をしているからで、子どもがどこまで感じてくれるかわからないが。だから4つあるんだという意味合いもあるのかと思う。
- 委員 説明を書いていたでいて、読ませてもらって、4つの言葉はいい言葉だと思って。ただこの「自立」という部分が割と強引に入っているのかなと感じがする。逆にその「自立」というのは、感じてもらうタイトルみたいなところもあるのかなと。「しなやかな心と体」で「創造」「敬愛」「剛健」を身につけた頃には「自立」できているような子になっているのではないかという意味合いも含ませれば。
- 委員 自分の言いたいことは、委員さんがいい言葉にしてくれて、本当にその通りだった。「自立」というのが、今の時代だからこそ、これからの時代だからこそいるのではないかという思いもある。情報過多の時代でもあるし、しっかりと自分をもっていない子も体感的に多いということも感じる。自分の子どもにも、強い心をしっかりと持ってほしいなという気持ちも込めて、「自立」「敬愛」「剛健」かなという思いはある。
- 委員 「自立」ということだが、「立つ」という字が使ってあるが「律する」という字もある。立つ「自立」よりももう一つ上にあるのが自分を律することだと思うが、「律する」という方は考えておられないか。事務局として。
- 事務局 事務局としては、「律する」というよりも「自分が立つ」という意味合いの方だと思っている。「自分自身がある」という感じに思ったので「立つ」にした。もともと、江府小、江府中の校訓が「自立」という「立つ」だったというのものもある。

委員 江府小学校統合の時に、「立つ」というのもあるし「律する」もあるという意見も両方出た。小学校や中学校も段階は、「立つ」という方だろうと。「律する」は、さらに上。まず立たなければ、さらに「律する」というのは、深い高い意味で、大人でもなかなか律せないところ。小学校、中学校の未熟段階では、「立つ」だということ。

副委員長 「立」という字も、「律」なのか「立」なのかということもそれぞれ思いもあると思うが、今の意見としては両方あるというところで。その他いかがか。今流れがなんとなく3つに絞ろうというようなイメージになってきているが。先ほど3つがいいのではと言ったが、事務局から今「創造」という言葉が捨てがたいという言葉があって、「自立」「敬愛」「剛健」があったうえで、「創造」していくようなということをおっしゃったが、それなら自分は「自立」「敬愛」「剛健」そして「創造」というように、「創造」を最後にもってきて、あえてもってきて創造ができるような子どもたちになっていこうみたいな。あえて4つというの（ありではないか）。「創造」を最後にもってきてここを最終的な目標にもっていこうみたいな。だったら子どもたちにイメージが持ちやすいのかなと。自分たちは最終的には創造できるように成長するんだというようなのがいいのかなと個人的には思った。3つにするのか4つにするのかとか絞れないが、今のところはいろいろまだ出していただければと思うので、いかがか。

委員長 「自主自立」というのは分けられない言葉ではないかと思う。「自立」だけ挙げるとちょっと重たい。自主性がないと自立性ができてこないという、自分の個人的な考えだが。どっちをとるかと言えば、自主性がある自立していく「りつ」は「立」というのがいいかなと。「自主自立」と挙げると長たらしくなるので「自主」。それがあれば「自立」は自ずとついてくる言葉なので、「自主」がいいかなと思ったりもする。

副委員長 その他いかがか。

委員 校訓の大前提として、保小中一貫教育目標とある程度整合性がとれていないといけないと思う。義務教育学校に対する願いや目標だと思うので、それが校訓とリンクしていないといけないかなと。その中で、先ほど3つに絞ろうという流れではあったが、自分は4つでもいいと思う。新しい意見が出るわけではないが。自分は「自主」よりは「自立」の方が小学校の低学年の子にはわかりやすいと思った。（資料を）見ていると、鹿野中の前の校訓に似ているので似たような感じで出てくるのだろうとは思ったが、教育目標の中で、事務局が関連付けていたようなことがこの校訓には包括できているので、あとは順番だとか中身を変えていく中で、「しなやかな心と体」というのがまず入っているだけで、十分校訓の意味が込められているのだろうと思う。「たくましい」と委員が言われたように「たくましくしなやかな」と入れるのもいいなあと思う。いいなと思うの

は、小学校と中学校が似た校訓というのがいいなと。それを受け継ぐという意味でもいいなと思ったり。ただ、ちょっと長いかなというふうにも思った。

副委員長 いかがか。一言ずつ言っていたらと思うが。委員いかがか。

委員 自分は、最初見た時からこれがいいなと思った。言葉を3つにするか4つにするかで言えば、自分は4つの方がいいと思う。副委員長がおっしゃったように、「創造」が最後にくるほうがいいかなと。

副委員長 委員いかがか。

委員 今おっしゃったのと一緒に、4つの言葉で「創造」を最後がいいかなと。

委員 いかがか。だいたい一言ずついただいたかなと思うが。これは今日絞れないように思うが。

事務局 4つでもいいのではないかというご意見で、「創造」が最後という意見にまとまるように見えるが。

委員 先ほどからのお話をうかがっていて、「創造」が最後で上に行くような形としたら、あえて順番のあとに、案というか思いついたことだが、「自立」「敬愛」「剛健」そして「創造」みたいな。あえてひとつだけ離れたような書き方をするのもおもしろいのではないかと考えていた。

副委員長 「そして」を書くか、少しスペースを空けるか。

委員 インパクトがある。

副委員長 いかがか。今方向性としては、「創造」を最後にもってくる。4つの言葉でいくというような流れもあるように思うが、まずそのことについてはいかがか。「そして」を入れるかどうかは置いておいて。その方向でいかがか。4つの言葉を使う、「創造」を最後にもってくるということで。あと、「そして」を入れるかどうかということと、「自主自立」のところ。「自主」という言葉がいいか「自立」という言葉がいいか、「りつ」は「律する」にするのかどうかということもあるかと思うが、このあたりもそれぞれの意味もあるし思いもあるので、これがいいというのがなかなか決めにくいかもしれないが、みなさんの思いを出してもらえればと思うがいかがか。

委員長 これから子どもたちがいろんな教科を学習していくにつれ、力をつけていかないといけない。そのために指導要領の改訂になっている。「自分を律する」をもってくると、いきなりモラル、律していく。やっぱり自主自立ができてからだんだんそういったことができてくるのではないかと。「自律」の「律する」もいいが、いきなり律しなさいと、自律しなさいではちょっと。「自主自立」、「自分が立つ」があって、だんだんと自分を律する気持ちや態度ができたりするのでは。「敬愛」ということもうたわれている。自分が自分を好きになって、相手も好きになってお互いに大事にしよう。最終的に何ができるかが求められているので、「創造」を抜かすことはできないと思う。委員が言っておられたように、何

ができるか。AI を使っているが、AI は人が使うものなので、目的を与えたりできたものかいいか悪いかは、人間があれを使いこなす。目的を与えて、「ああしてほしい、こうしてほしい」をAI を使いながら自分が創りあげていくわけで、AI に使われるわけではない。そういった、物事を創りだしていくという。さっき言ったような、アントレプレナーシップもすでに中学校がやっておられるわけで、仲間と話し合いながら、話し合う力もできて、それを発表する力もできて、それをまとめていく力もできて、プレゼンテーションする力もできて、実際にそれをやっていると。それをやるとやったなあという成就感になる。最終的にはふるさとを愛する子どもができていくという。これは素晴らしいやり方の教育。「創造」はなくせない。

- 事務局 再提案ではないが、話を聞きながら改めてこういう形でというふうに思うのは、「しなやかな心と体」、「自立」「敬愛」「剛健」「創造」。「そして」は、先生や大人たちが「そして」という意味合いが「創造」には入っているということを説明をしながら。なので4つの言葉なのかとか、アンバランスなのかとかも含めて、そういうふうに捉えるというのはどうかと。「自立」「敬愛」「剛健」「創造」。
- 副委員長 事務局にまとめていただいたが、大筋皆さんの話し合いの方向でいくと、それでまとまるのかなと私も思うが、そのような形でよろしいか。(うなずき)。では、決定させていただきたい。

### (3) その他

- 委員 前回の時にすぐに対応いただき、(ここでの話を) 便りという形で出していただいていたありがとうございました。最初にしたほうがよかったのかもしれないが。保育園、小学校、中学校は、教頭先生にご協力いただきながら、この会の議事概要みたいなものを皆さんのところに届くようにしていただいた。合わせて便りも出していただいたので、保護者の方からはすぐ動いていただいていたというように言葉もいただいた。そのことをお伝えしておきたい。迅速に動いていただいていたありがとうございました。引き続き定期的に出していただけると皆さん安心していろいろと情報収集されると思う。
- 事務局 第2号も手はずを整えている。今日の話し合いの内容も紹介したほうがいいだろうと判断し、その部分だけ残している状態。今日の話し合いが終わればまた第2号という形で発行する。タイトルもきちっと。(前回は) 仮だったが(校名が) 決まったので。そういったことも含めて第2号という形で皆さんにお示ししたいと思っている。

※第5回の期日についての協議

## 4 閉会

委員長 いろいろとご意見をだしていただき、校訓の方も決まった。着々と骨組みができていくところである。次回の日程も決まったので、お忙しいと思うがよろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

副委員長 以上で、第4回委員会を終わりにする。ありがとうございました。

○第5回委員会

- ① 日時：令和2年9月18日（金）19：30～
- ② 場所：江府町防災・情報センター 2階情報研修室